

# 岐阜県十七宿 散策ガイド

《Walking Guide》  
Old stage of 17 in NAKASENDO  
that passes Gifu Prefecture

Magome

Ochiai

Nakatsugawa

Ooi

Okute

Hosokute

Mitake

Fushimi

Ota

Unuma

Kano

Goudo

Mieji

Akasaka

Tarui

Sekigahara

Imasu

お問い合わせ[美濃中山道連合]

中津川市観光課	〒508-0032 中津川市栄町1-1 にぎわいプラザ4階 TEL. 0573-66-1111 FAX. 0573-65-3367 URL <a href="https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/kanko/">https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/kanko/</a> E-mail <a href="mailto:kankou@city.nakatsugawa.lg.jp">kankou@city.nakatsugawa.lg.jp</a>
恵那市観光交流課	〒509-7292 恵那市長島町正家1-11 TEL. 0573-26-2111 FAX. 0573-26-2861 URL <a href="https://www.city.ena.lg.jp/">https://www.city.ena.lg.jp/</a> E-mail <a href="mailto:kankokoryu@city.ena.lg.jp">kankokoryu@city.ena.lg.jp</a>
瑞浪市商工課	〒509-6195 瑞浪市上平町1-1 TEL. 0572-68-2111 FAX. 0572-68-9862 URL <a href="http://www.city.mizunami.lg.jp/">http://www.city.mizunami.lg.jp/</a> E-mail <a href="mailto:shoko@city.mizunami.lg.jp">shoko@city.mizunami.lg.jp</a>
御嵩町まちづくり課	〒505-0192 可児郡御嵩町御嵩1239-1 TEL. 0574-67-2111 FAX. 0574-67-1999 URL <a href="https://www.town.mitake.lg.jp/">https://www.town.mitake.lg.jp/</a> E-mail <a href="mailto:matidukuri@town.mitake.lg.jp">matidukuri@town.mitake.lg.jp</a>
可児市観光交流課	〒509-0292 可児市広見1-1 TEL. 0574-62-1111 FAX. 0574-63-4754 URL <a href="https://www.city.kani.lg.jp/">https://www.city.kani.lg.jp/</a> E-mail <a href="mailto:kankou@city.kani.lg.jp">kankou@city.kani.lg.jp</a>
美濃加茂市商工観光課	〒505-8606 美濃加茂市太田町3431-1 TEL. 0574-25-2111 FAX. 0574-27-3863 URL <a href="http://www.city.minokamo.gifu.jp/">http://www.city.minokamo.gifu.jp/</a> E-mail <a href="mailto:shokan@city.minokamo.lg.jp">shokan@city.minokamo.lg.jp</a>
坂祝町企画課	〒505-8501 加茂郡坂祝町取組46-18 TEL. 0574-66-2411 FAX. 0574-27-1808 URL <a href="http://www.town.sakahogi.gifu.jp/">http://www.town.sakahogi.gifu.jp/</a> E-mail <a href="mailto:kikaku@town.sakahogi.gifu.jp">kikaku@town.sakahogi.gifu.jp</a>
各務原市中山道鶴沼宿町屋館	〒509-0132 各務原市鶴沼西町1-116-3 TEL. 058-379-5055 FAX. 058-379-5055 URL <a href="https://www.city.kakamigahara.lg.jp/kankobunka/1010039/unuma/index.html">https://www.city.kakamigahara.lg.jp/kankobunka/1010039/unuma/index.html</a> E-mail <a href="mailto:machiyakan@city.kakamigahara.gifu.jp">machiyakan@city.kakamigahara.gifu.jp</a>
岐阜市観光コンベンション課	〒500-8701 岐阜市司町40-1 TEL. 058-265-3984 FAX. 058-214-2440 URL <a href="https://www.city.gifu.lg.jp/">https://www.city.gifu.lg.jp/</a> E-mail <a href="mailto:kankou@city.gifu.gifu.jp">kankou@city.gifu.gifu.jp</a>
瑞穂市商工農政観光課	〒501-0392 瑞穂市宮田300-2 TEL. 058-327-2103 FAX. 058-327-2120 URL <a href="https://www.city.mizuho.lg.jp/">https://www.city.mizuho.lg.jp/</a> E-mail <a href="mailto:syookounou@city.mizuho.lg.jp">syookounou@city.mizuho.lg.jp</a>
大垣市商工観光課	〒503-8601 大垣市丸の内2-29 TEL. 0584-47-8597 FAX. 0584-81-4899 URL <a href="http://www.city.ogaki.lg.jp/">http://www.city.ogaki.lg.jp/</a> E-mail <a href="mailto:syookoukankouka@city.ogaki.lg.jp">syookoukankouka@city.ogaki.lg.jp</a>
垂井町産業課	〒503-2193 不破郡垂井町宮代2957-11 TEL. 0584-22-1151 FAX. 0584-22-5180 URL <a href="http://www.town.tarui.lg.jp/">http://www.town.tarui.lg.jp/</a> E-mail <a href="mailto:sangyo@town.tarui.lg.jp">sangyo@town.tarui.lg.jp</a>
関ヶ原町地域振興課	〒503-1592 不破郡関ヶ原町大字関ヶ原894-58 TEL. 0584-43-1111 FAX. 0584-43-2120 URL <a href="http://www.town.sekigahara.gifu.jp/">http://www.town.sekigahara.gifu.jp/</a> E-mail <a href="mailto:chilikishinko@town.sekigahara.gifu.jp">chilikishinko@town.sekigahara.gifu.jp</a>

NPO法人 宿木	〒505-0042 美濃加茂市太田本町3-3-31 太田宿中山道会館 TEL. 0574-23-2200 FAX. 0574-23-2201 URL <a href="http://kaikan.ootajuku.net/">http://kaikan.ootajuku.net/</a> E-mail <a href="mailto:kaikan@ootajuku.net">kaikan@ootajuku.net</a>
中山道加納宿文化保存会	〒509-0126 各務原市鶴沼東町8丁目26 TEL. 058-384-7100 (尾関孝彦)
武並地区中山道保存会	〒509-7122 恵那市武並町竹折1059-36 TEL. 0573-28-2427 (武並コミュニティセンター内)



不許複製：いかなる方法においても  
複写、複製を禁ず。

この冊子は、岐阜県「清流の国ぎふ」  
観光回廊づくり事業費補助金を  
受けています。



中山道は、その前身を東山道と呼び、西と東を結ぶ重要な街道でした。（現在、伏見宿近辺に残る古墳などがその一端を示しています。）

この東山道は古くは近江・美濃・飛騨・信濃・武蔵・下野・上野・陸奥の8国の総称でしたが、その後「大化の改新（645年）」頃に道の名前となり、文武天皇の時代（697年～707年）に定着したようです。しかしこの東山道は、整備が順調に進んだ東海道と比較され、裏街道的な存在として扱われていきます。やがて戦国時代に入り宿駅が街道沿いに設けられ、慶長5年（1600年）、関ヶ原の合戦において天下をとった徳川家康が、全国の道路整備に着手します。翌年東海道の巡視が行われ、東海道五十三次が定められたのを契機に、東山道改め「中山道」「甲州道中」「奥州道中」など幕府直轄の街道が定められ、さらに万治二年（1659年）には日光道中を含めた五街道が整備されました。この五街道（東海道）＜中山道＞（甲州街道）＜奥州街道＞（日光街道）の中でも「東海道」と「中山道」は江戸と京を結ぶ重要幹線として機能しました。川を渡ることが多く、天候によって支障がおきる東海道と違い、中山道は女性を含めた多くの旅人の往来に好まれたといえます。名称の由来は、日本国土の中間の山道ということで中山道とも記されましたが1716年、徳川幕府は中山道を中山道と名称を統一しました。江戸の日本橋から埼玉県、群馬県、長野県を経て、岐阜県、滋賀県、京都を結ぶ中山道は、江戸時代の主要道五街道の中でも最も長く、六十九の宿場があります。善光寺詣り、熱田さん詣り、伊勢詣りなど参拝のルートとしても栄え、同時に京から江戸へは公家の姫君が将軍に降嫁するルートとしても頻繁に利用されました。華やかな都から山奥を抜けて江戸に行く道すがらには姫君の痕跡も多く、別名、姫街道、とも呼ばれています。

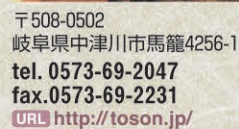
木曾路「馬籠」から  
美濃路「十六宿」

江戸日本橋から京都三条大橋まで六十九宿〔百三十五里二十四町八間 約五百二十キロ〕。この中山道の四分の一相当(約百二十八キロ)が美濃国、つまり岐阜県です。

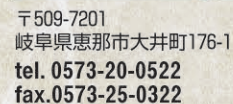
十六の宿場を持つ美濃中山道は山間を通る道程で、木々や渓谷に四季折々の自然の美しさがある街道です。中でも、当時の景観を比較的残しているのが、中津川宿―太田宿間。

また平成十七年二月に岐阜県中津川市に編入となった木曽路馬籠宿は、景観を保存した観光地として賑わいをみせています。

藤村記念館



## 中山道広重美術館



**URL** <http://hiroshige-ena.jp>

このパンフレットに使用している「木曾海道六拾九次之内」(深斎英泉・歌川広重:作)の図は、中山道広重美術館の協力によるものです。

中山道歷史資料館



タルイピアセンター



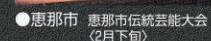
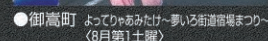
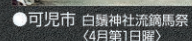
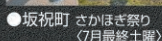
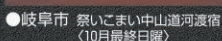
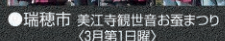
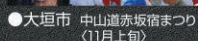
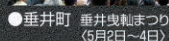
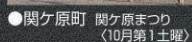
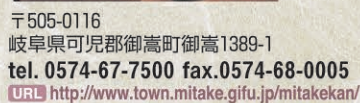
中山道鵜沼宿町屋館



太田宿中山道会館



中山道みたけ館

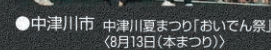


美濃加茂市	可児市	御嵩町	瑞浪市	恵那市	中津川市
十月第三日曜	八月第土曜	四月第日曜	十月第日曜	九月第四土曜・日曜	二月下旬
	四月第日曜	八月第土曜		二月下旬	八月十一・十二・十三日
	三月二十八日	四月第日曜		一月七日	十一月下旬
		八月第土曜			氷雪の灯まつり
		三月二十八日			中津川夏まつり（おいでん祭）
		四月第日曜			三宿街道祭り
		八月第土曜			市神社社例祭（七日市）
		四月第日曜			恵那市伝統芸能大会
		八月第土曜			みのりのみのり祭
		三月二十八日			神明・白山神社社例大祭
		四月第日曜			御嵩町薬師祭礼
		八月第土曜			よつてりやあみたけ
		三月二十八日			（夢いろ街道宿場まつり）
		四月第日曜			子守神社大祭
		八月第土曜			白鬚神社流鏑馬祭
		三月二十八日			おん祭 MINOKAMO
		四月第日曜			夏祭の陣（市民花火大会）
		八月第土曜			おん祭 MINOKAMO
		三月二十八日			秋の陣（太田宿・中山道まつり）
		四月第日曜			中山道・中津川宿（六斎市）
		八月第土曜			毎月第二日曜（月を除く）

## 祭・イベント一覧

伝統を感じ、新しさを感じ、  
四季折々に賑わいをみせる  
美濃路の祭りは人々の暮らしと溶け込み  
輝きを放ちます。

中山道  
美濃路を  
彩る  
祭





## 木曾路最後の宿場「馬籠宿」。

1 溪斎英泉の浮世絵「馬籠驛峠ヨリ遠望之図」



### 長野県境から馬籠宿へ

馬籠峠を越えて中山道は長野県から岐阜県に入ります。平成十七年二月の市町村合併により長野県山ノ内村が中津川市に越境合併したことにより、馬籠宿は岐阜県に入つて最初の宿場となりました。馬籠峠から馬籠宿の間にある峠の集落は、かつて牛方(牛による輸送)に従事していた家が多く、その面影を残す家並みが続きます。素朴で味わい深い風景を楽しみながら進むと、今でも宿場の風情が色濃く残る「馬籠宿」へと続きます。

- 1 馬籠峠
- 2 峠の集落
- 3 十返舎九歌碑

### 馬籠宿

中山道四十三番目の宿場となる馬籠宿は木曾十宿の最南端、眼下には美濃の国を眺望できる所にあります。馬籠宿は急峻な坂道の宿場で明治大正の大火で江戸時代の建物は焼失したものの、住民が丸となった町並み保存に力を入れ昔の町並みを再現しています。明治の文豪島崎藤村の生誕地で、小説「夜明け前」には明治維新期の馬籠、中津川の様子が描かれています。藤村記念館は、藤村自らの要望により幼少期を過ごした本陣跡に建てられ、本陣の隠居所が当時のまま残っています。

- 4 高札場
- 5 馬籠本陣史料館
- 6 藤村記念館
- 7 永昌寺
- 8 清水屋史料館
- 9 馬籠宿車坂の「樹形」

## 藤村筆「是より北木曾路」の石碑の前にある、新茶屋の一里塚。

歌川広重の浮世絵「落合」



### 馬籠宿から落合宿へ

馬籠宿との境に、島崎藤村筆「是より北木曾路」の石碑と「新茶屋の一里塚」があります。ここが、中山道美濃路の始まりとなります。ここから落合宿までの区間には、勾配がきつ、その昔難所のひとつと言われていた十曲峠があり、その中には、国の史跡に指定された「落合の石畳」があります。この区間は、昔の面影を偲ぶつ散策できます。峠を下った先の落合川に架かる「下桁橋」は、歌川広重の浮世絵「木曾街道六拾九次内 落合」にも描かれている橋です。この橋を渡ると「落合宿」へと入っていきます。

- 10 馬籠城跡(丸山城)
- 11 正岡子規句碑(サンセットポイント)
- 12 新茶屋の石碑群
- 13 落合の石畳
- 14 かねいり場馬頭観音
- 15 山中薬師の石碑群
- 16 山中の馬頭観音
- 17 下桁橋



落合宿は、江戸の日本橋から数えて四十四番目の宿場です。宿の中央部にある本陣は、門・建物・庭がすべて往時のまま残っており、中山道全域を通じて極めて数少ない例です。

- 18 滝場の道標 馬頭観音
- 19 滝場の馬頭観音
- 20 上町常夜灯
- 21 落合宿の本陣
- 22 善昌寺の名号碑
- 23 下町角道標



この区間では、何度か国道十九号を横断しています。現在でも「おがらさま」と親しまれている「落合五郎兼行之城跡」や「子野の里塚」の碑、御嶽開山

の行者を記念して「覚明霊神」を祀った「覚明神社」・徳本上人の念仏碑等がある子野の「とんこんさん」、そして中津川の街がよく見える「旭ヶ丘公園」等があります。中津高校の前の坂を下り、茶屋坂を下っていくと「中津川宿」です。

- 24 向町の馬頭観音
- 25 落合五郎兼行之城跡
- 26 杉松稲荷大明神
- 27 天狗堂水戸浪士熊谷三郎の墓
- 28 子野の馬頭観音
- 29 覚明霊神
- 30 子野の「とんこんさん」(徳本様)
- 31 上金の秋葉権現
- 32 旭ヶ丘公園

## 中津川宿の古い街並みや、たくさんの野仏たちがやさしく迎えてくれます。

歌川広重の浮世絵「中津川」(雨)



### 中津川宿

復元された茶屋坂の高札場を過ぎると「中津川宿」です。木曾路の玄関口としても栄え、特に本町あたりは街道情緒をよく残しています。

東濃地方随一の商業の町として栄えた中津川宿の町並みには「うだつ」が残ります。うだつは防火用または身分の象徴とも言われ、裕福な家にしか設けられなかったことから、「うだつがあがらない」はこから生まれた言葉だと言われています。

宿場ではかつて三と八の付く日に「六斎市」と呼ばれる市が開かれていました。現在は復活した六斎市が毎月第一日曜日に開催されています。

また、宿場内の道は鍵の手に曲がっていて、いわゆる「枳形」を形造っています。これは軍事上の必要からとも客止めの策からとも言われています。

- 33 茶屋坂の高札場と常夜灯
- 34 中山道歴史資料館 / 中津町の郷蔵跡
- 35 恵奈山道標
- 36 うだつのある街並み



歌川広重の浮世絵「中津川」

2 歌川広重の浮世絵「大井」



### 中津川宿から大井宿へ

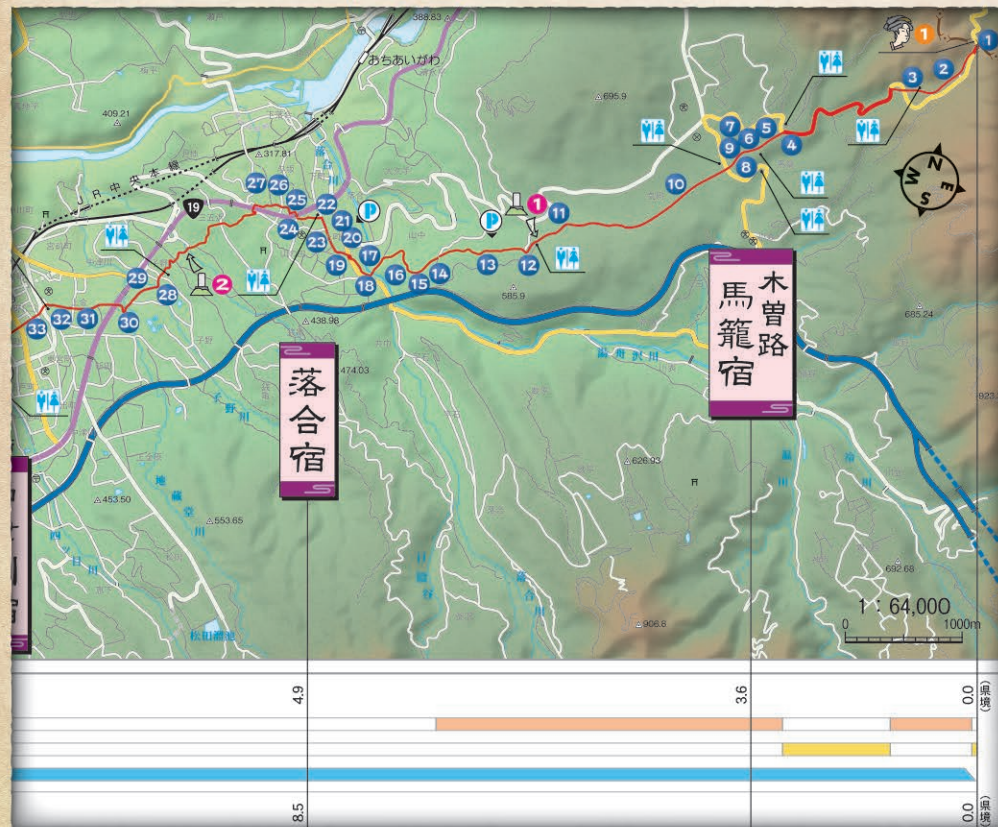
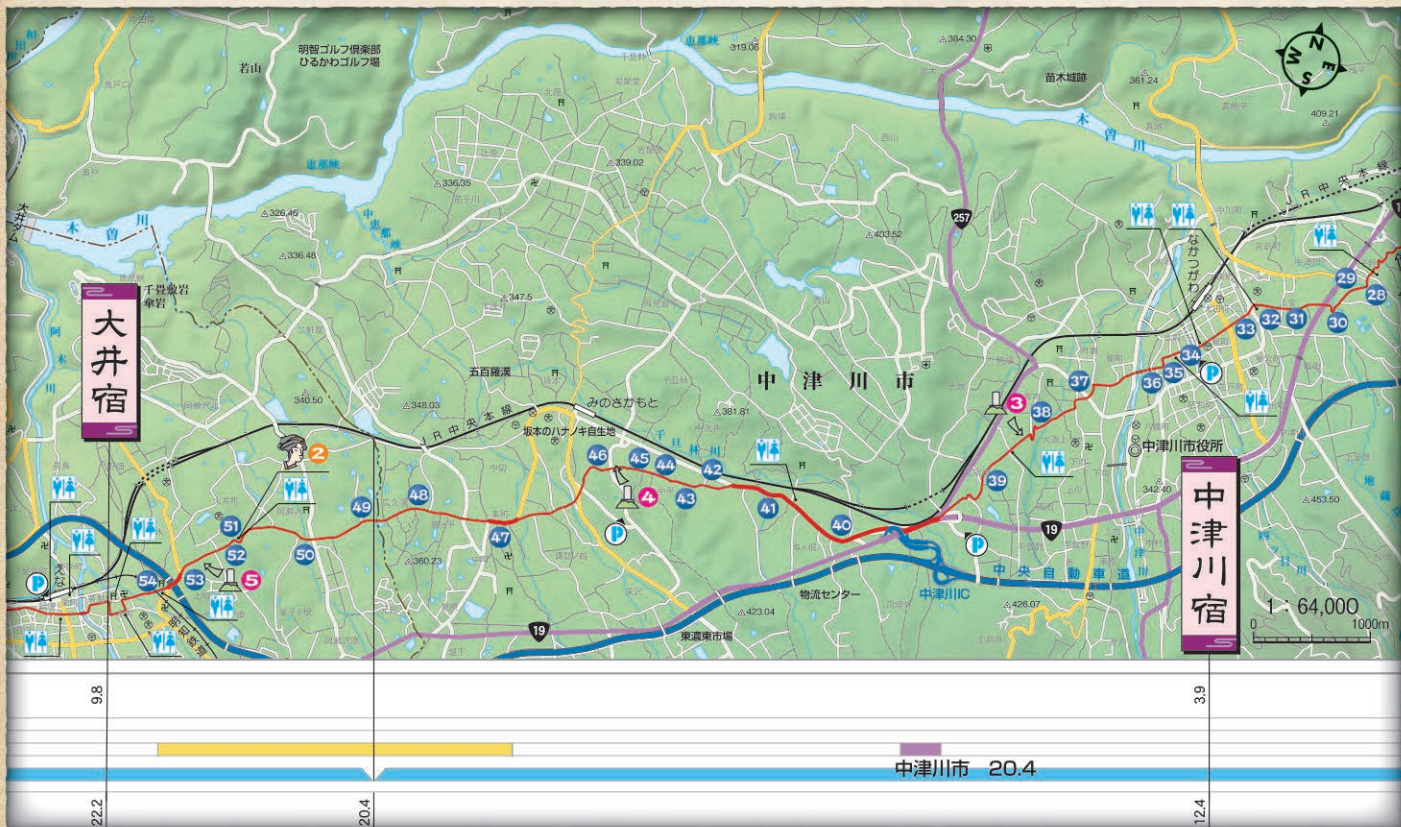
この区間は多少幅広めに舗装されていますが、ほぼ旧中山道の面影を残している区間と言えます。

中央自動車道の中津川インターチェンジの付近は、地域開発などにより中山道が一部現存していない区間があります。

このほか、ひとつの胸に男女の頭がある珍しい石像の「双頭身道祖神」や「上宿の里塚」、石灯籠のような形の珍しい「六地藏」「三津屋の里塚跡」「関戸の里塚跡」などがあります。

また、恵那市に入ると甚平坂のところに、県が沿道修景事業で施工した「甚平坂公園」があります。この公園の中には、歌川広重の「木曾海道六拾九次之内 大井」を描いた現代の石碑があります。

- 37 石屋坂の名号碑
- 38 双頭の「身道祖神
- 39 会所沢の石碑
- 40 六地藏
- 41 かじや平の石仏群
- 42 中平の常夜灯
- 43 中平のじゅん天様
- 44 三津屋の名号碑
- 45 三津屋の馬頭観音
- 46 三津屋の里塚跡
- 47 茄子川の常夜灯
- 48 茄子川ので蔵
- 49 岡瀬沢の馬頭観音
- 50 岡瀬沢の常夜灯
- 51 甚平坂公園
- 52 関戸宝篋印塔
- 53 上宿の石仏群
- 54 上宿の石仏群



馬籠宿

凡 例	
中山道	浮世絵地点
高速道路	一里塚
国道	その他の遺構等
県道	駐 車 場
	市町村延長
	市町村延長

宿間距離  
車両通行不能区間  
道路種別  
市町村延長  
☆ 散策した所に色を塗りましょう



大 名行列も、旅人の息も裾も乱れる「みだれ坂」。  
十三峠を進みます。



大井宿

大井宿は、美濃十七宿中でも大いに繁盛した宿場で、本陣門、旅籠、商家など昔の面影を残す建物も残っています。宿内を通る中山道は、昔どおりの長さ、幅で中山道随といわれる六カ所もの升形が残っています。

駅前通りに位置する中山道広重美術館では、溪斎英泉歌川広重の「木曾海道六拾九次之内 摘物をはじめ広重の浮世絵を中心とした所蔵展示。また浮世絵が楽しく学べるナビールームでは、模写版木を使った重ね摺りが体験できます。

- 55 毘沙門天の燈籠
- 56 大井宿の本陣跡
- 57 大井宿の家並み／中山道ひし屋資料館明治天皇行在所
- 58 中山道広重美術館

大井宿から大湫宿へ

この区間は、街道そのものが幅員等全体的に往時の面影を残している区間であり、また未舗装のままの区間もかなり残っています。特にこの未舗装区間は、文化庁の歴史の道整備事業で修理されており、当時の中山道がそのまゝの状態でも保存されています。

「西行塚」横根の「里塚」眺めが素晴らしい。「祝峠（姫御殿跡）（見晴しが良く、馬籠まで見えたと言う）」みだれ坂（大名行列の列も乱れた。）「紅坂の「里塚」はたん岩（石畳の中にある直径五メートルほどの岩）」深立立跡「権現山の里塚（江戸へちようど九十里）」尻冷やし地蔵など遺構や見所も多く、ここから御嶽宿の手前までは、東海自然歩道もほぼ同じコースを通っています。十三峠という難所が大半を占めており、歩きこたえもある区間です。



- 59 中野の観音堂
- 60 新田の観音堂
- 61 西行硯水公園
- 62 西行坂の馬頭観音
- 63 伝西行塚
- 64 横根の追分と道標
- 65 祝峠（姫御殿跡）
- 66 久須見村境の妻神
- 67 首なし地蔵
- 68 みだれ坂（みだれ橋）
- 69 三社灯籠
- 70 ぼたん岩
- 71 深立立跡本陣跡
- 72 佐倉宗五郎大明神
- 73 藤村高礼場（修景）
- 74 権現山の「里塚」
- 75 大久後立跡
- 76 炭焼立跡
- 77 順礼水と石畳
- 78 曾根松坂の並木松
- 79 三十三所観音
- 80 尻冷やし地蔵
- 81 しゃれこ坂の番号碑
- 82 宗昌寺の女人講碑

中 山道美濃路の最高所である琵琶峠で、  
七三〇メートル余の石畳を歩く。



大湫宿

江戸日本橋から数えて四十七番目の宿で、今は奥深い山の中にひっそりと佇んでいます。

宿内では古びた格子戸の家並みが続き、往時の風情が伝わってきます。本陣は明治時代に小学校になってしまいましたが、脇本陣は今も健在です。また、神明神社には樹齢六百七十年の大杉がどしりと構えていました（令和二年七月倒木）。

- 83 大湫宿の本陣跡
- 84 大湫宿の脇本陣跡（登録有形文化財）
- 85 旧森川善章家住宅（登録有形文化財）
- 86 大湫の観音堂
- 87 旧森川訓行家住宅（登録有形文化財）

大湫宿から細久手宿へ

この区間は、見所は、何といても大湫宿から八瀬沢立跡跡までの「琵琶峠」車の通らない区間であり、中山道美濃路の最高所の峠で、当時の人々も親しんだ「琵琶峠の石畳」が現存しています。

このほかにも「弁天池」や江戸へ九十二里、京都へ四十二里の「奥之田の「里塚」など、道路は舗装されていますが往時を偲ばせます。

- 88 母衣岩鳥帽子岩
- 89 琵琶峠の石畳
- 90 八瀬沢立跡
- 91 弁天池
- 92 女男松の跡

細久手宿

大湫宿と同じように、奥深い山の中でひびいた風情が漂っています。厄除けに造られた「庚申堂」には、三百年の歳月を経た石造物があり、また老舗の暖簾を誇る「大黒屋」は、尾州徳川家の「定本陣」で今も百六十年前と変わらぬ姿で営業を続けています。

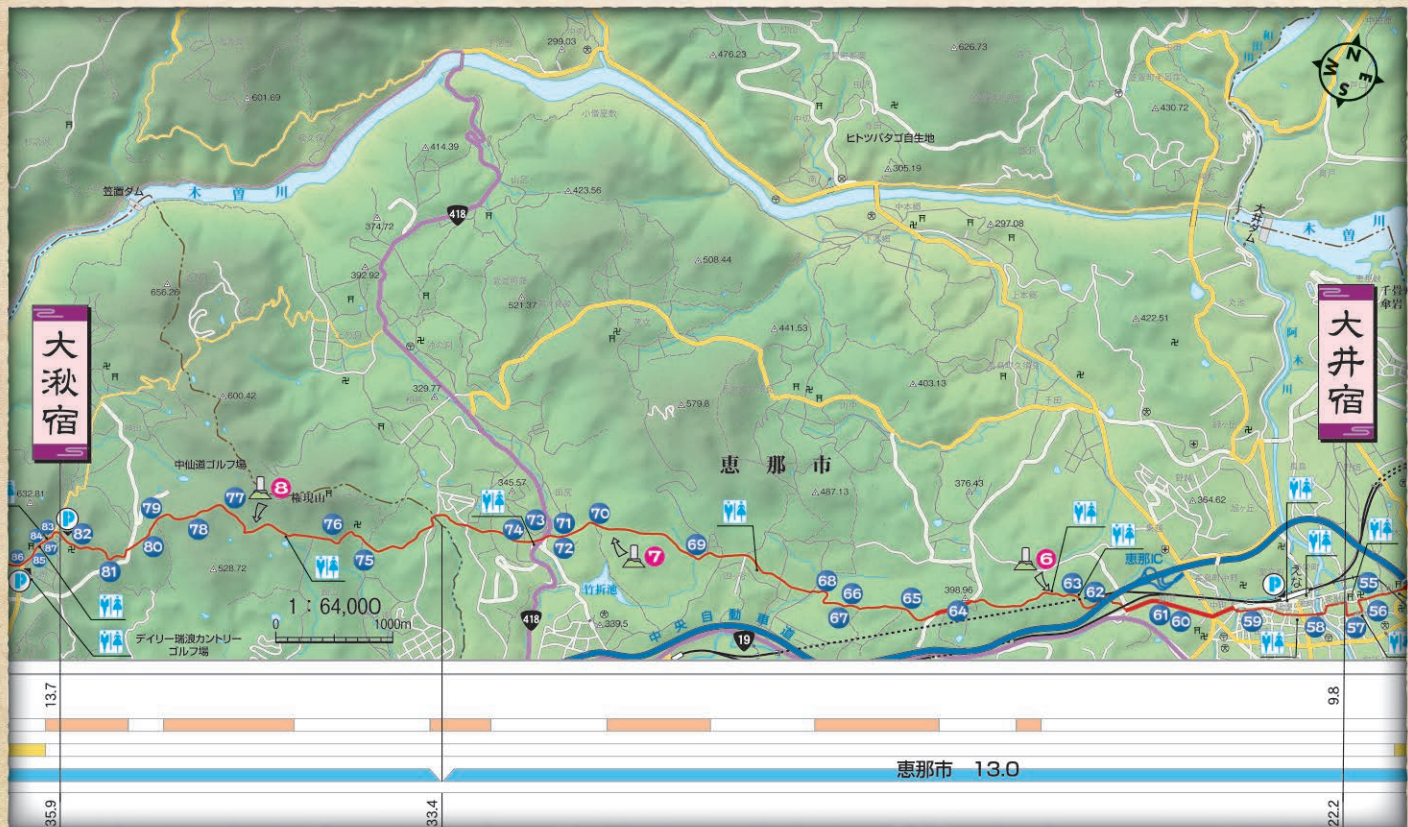
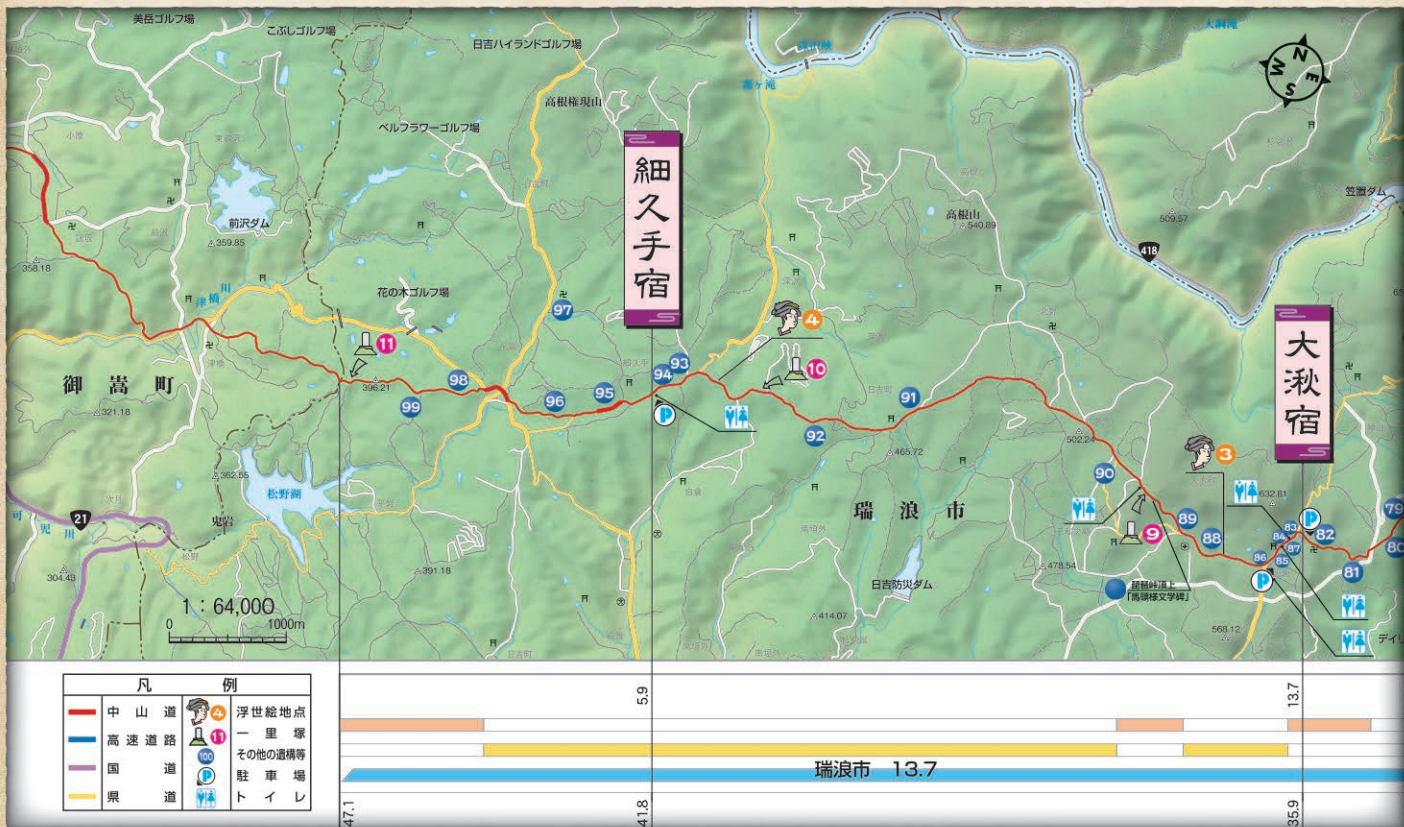
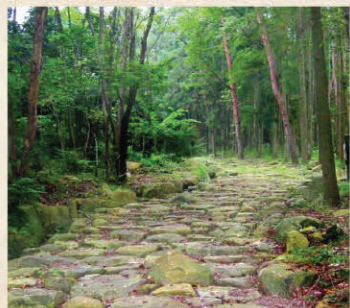
- 93 庚申堂の石仏
- 94 大黒屋（登録有形文化財）

細久手宿から御嵩町境へ

この区間は、県道を過ぎると車の入らない、往時の面影を色濃く残す山の尾根道を進みます。旅人が道中の安全を願って手を合わせた「秋葉坂三尊」や、ここから西、しばらく見られない現存の里塚「鴨之巣の「里塚」」などがあります。

また秋葉坂三尊のあたりは、古い松並木が続いており、ひっそりと落ちついた雰囲気漂う所で、並木の向こうの眺望が目を惹きつけてくれます。

- 95 細久手の穴観音
- 96 平岩の石仏
- 97 開元院
- 98 秋葉坂三尊
- 99 鴨之巣の道祖神碑
- 11 鴨之巣の「里塚」





「諸之木峠の展望台」で、「お弁当」なんていかがでしょう。



10

瑞浪市境から御嶽宿へ

この区間は、大半が細久手宿から続く東海自然歩道の区間で、往時の姿を非常によくとらえています。  
皇女和宮降嫁時ゆかりの遺構も多く、「諸之木峠の御殿場跡」や「春の清水」などがあります。特に諸之木峠の御殿場跡北には、遠くは南アルプスの美しい山々を望み、望みだせる見晴らし台があり、お弁当をいただくには絶好の場所です。  
諸坂には復元された里塚や整備された石畳があります。整備された遺構にもかかわらず、何処となく懐かしさを感じるところです。

また、本線より少し離れた所に「七御前マリアの里」があります。西行塚や横ヶ根の里塚あたりから続いていた東海自然歩道は、御嶽宿を過ぎると南へ別れていきます。

- 1 ふじあげ坂の馬頭観音
- 2 津橋薬師堂の石仏群
- 3 津橋の常夜灯(室戸神)
- 4 山内嘉助屋敷跡
- 5 御殿場跡
- 6 諸之木峠の展望台
- 7 咽清水
- 8 三舌の清水
- 9 諸坂の馬頭観音
- 10 諸坂の石畳(復元)
- 11 七御前マリアの里
- 12 西洞の耳神社
- 13 西洞の寒念仏供養塔
- 14 和泉式部廟所
- 15 中街道追分の道標
- 16 栢森の二里塚跡

御嶽宿

御嶽宿は、願興寺の門前町として栄え、慶長七年(一六〇二)、中山道の宿場のなかでもいち早く整備されると、人や物、情報や文化が往来し、大きな賑わいをみせました。  
名鉄「御嵩駅」から東へと続く町並みには、本陣跡や商家竹屋など、往時の面影が色濃く残されているほか、なかでも宿場の西入口にある大寺山願興寺には、本堂をはじめ国指定重要文化財の仏像二十四躯が納められており、古来より続く歴史の息吹を感じることができます。

- 16 上町の用心井戸
- 17 御嶽宿の本陣跡/中山道御嶽宿商家竹屋
- 18 中山道みかけ館
- 19 願興寺
- 20 愚溪寺
- 21 御嶽宿わいわい館
- 22 御嶽宿さんさん広場



1 歌川広重の浮世絵「御嶽」

現在の国道二十一号の中、所々にかいま見る昔の面影に哀愁を感じます。

2 歌川広重の浮世絵「伏見」



御嶽宿から伏見宿へ

この区間は、大半が国道二十一号と重複しており、昔の面影はほとんど感じられませんが、所々国道から離れる区間では、中山道らしさを感じられます。  
「鬼の首塚」「比衣の二里塚跡」「在原行平卿の碑」などの遺構があります。

伏見宿

伏見宿は、御嶽宿の開宿に遅れること約九十年後に整備されました。近くには木曾川の水運を利用した新村湊から多くの物資が運び出され、賑わいをみせていました。  
現在は、わずかながらに古い町並みや本陣跡碑などが、往時の名残りをとめています。  
また、西坂には箱ヶ岳開山で知られる播磨上人の名号碑が残され、人々の暮らしたのなかにあった信仰の一端を知ることができます。

- 23 鬼の首塚
- 24 願戸八幡の灯籠/願戸城址
- 25 比衣の播磨碑
- 26 比衣の二里塚跡
- 27 中山道ゆつたり伏見宿
- 28 伏見宿の道標
- 29 伏見宿の本陣跡/領界碑
- 30 一本松公園
- 31 伏見西坂の播磨碑
- 32 女郎塚
- 33 新村湊跡

伏見宿から太田宿へ

この区間は「犬山街道の道標」以西から、太田宿 美濃加茂市の対岸にあたる「今渡の渡し場」及び「土田の渡し場」までの間など、大半が可児市内を通っています。  
全線国道及び市道として道路整備されており、往時の面影はほとんど残っていませんが、「今渡の渡し場」の石畳や「土田の里塚跡」「桜井の泉」等、所々で往時の面影と出会うことができます。

このあたりの渡し場は、当初は土田にあったらしいのですが、木曾川の流れの変化につれて今渡に移動していったようです。  
「里塚も」「土田の二里塚」はわずかに石碑が残っていますが、「新田の里塚」については無くなってしまいました。

- 34 犬山街道の道標
- 35 今渡渡し場跡公園
- 36 今渡の渡し場跡
- 37 桜井の泉
- 38 土田の渡し場跡
- 39 土田の二里塚跡
- 40 土田の渡し場跡



36



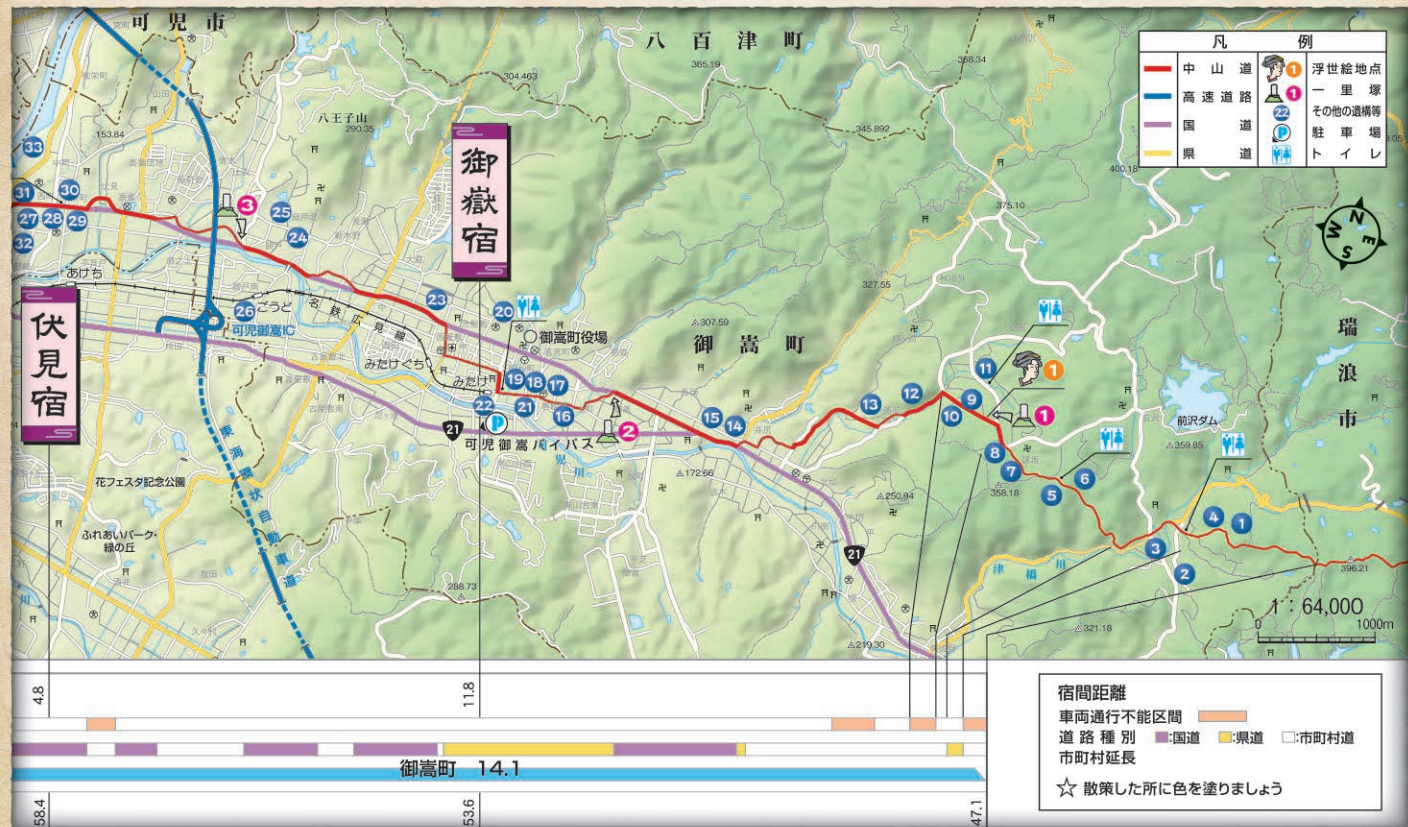
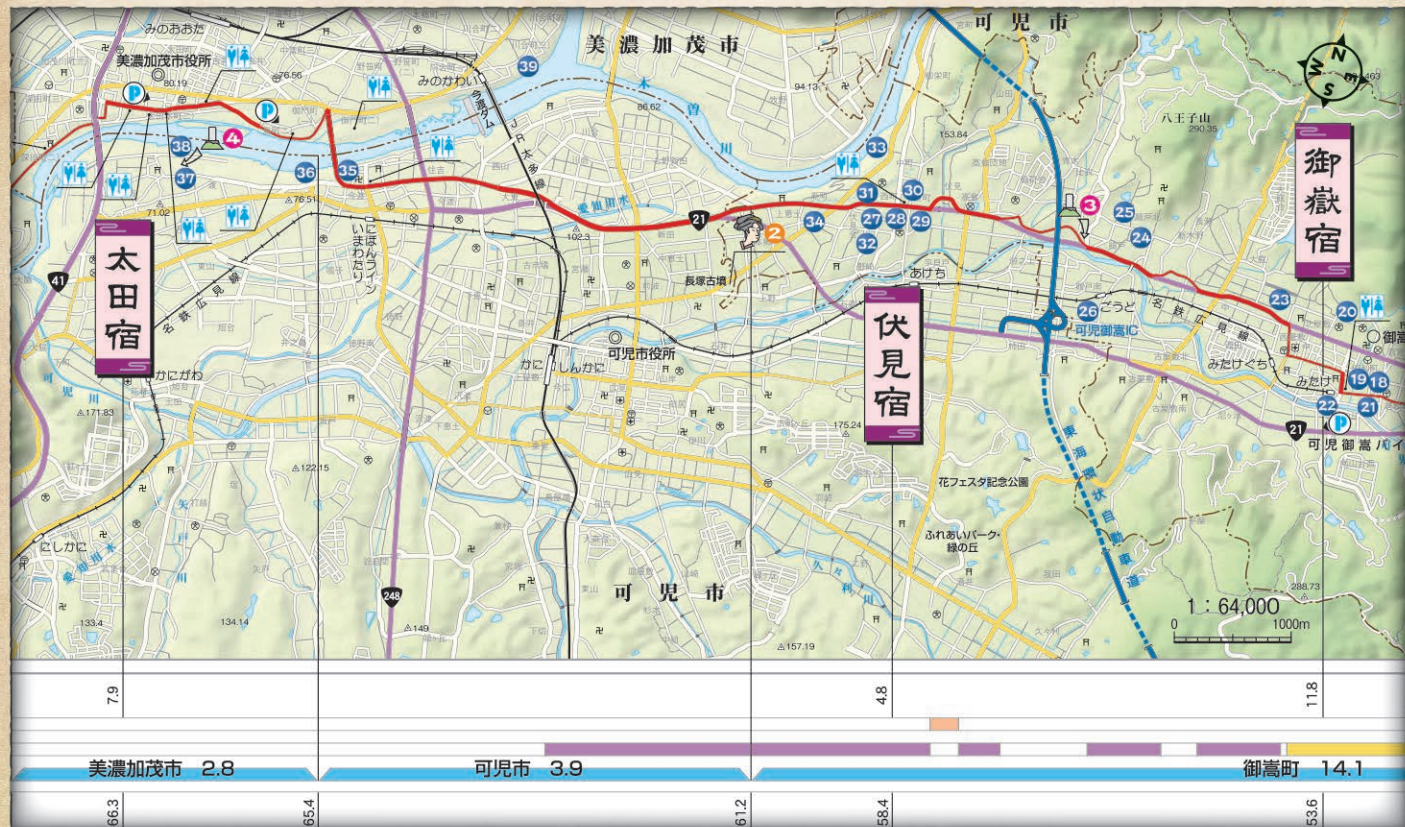
8



御嶽宿

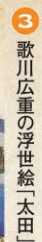


32





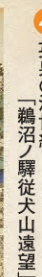
## 09



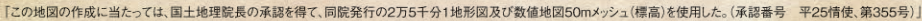
美濃加茂市	2.8	可児市
-------	-----	-----



坂祝町 4.6 美濃加茂市 2.8



A scenic view of a traditional Japanese wooden bridge over a river. A large, lush green weeping willow tree stands prominently on the left bank. In the background, a traditional Japanese building with a dark tiled roof and white walls is visible. The bridge has a wooden railing and a small structure on the right side. The water is calm, reflecting the surrounding scenery.





加納城の城下町として、  
美濃十七宿の中で最大の宿場を誇った加納宿

各務原市境から加納宿

岐阜市内の中山道は、現在舗装されていますが、全体的に道すじや幅員はほとんど変わっており、街中とはいえ歴史を感じさせる家並み、道標、寺社などが見ることが出来ます。  
このあたりは低湿地を通ることもあって、周りより少しでも高い自然堤防や、扇状地の先端部を越えるような道すじを通過しています。「切通陣屋跡」や「領下の地蔵堂の道標」などがありますが、驚くことにこの街中に「細畑の二里塚」が両塚とも現存しています。

1 歌川広重の浮世絵「加納」



加納宿

加納宿は中山道の宿場の中でも数少ない城下町で、美濃十七宿の中で最大規模の宿場でした。  
宿内は鍵状に折れ曲がっており、随所に道標や碑があり、往時を偲ぶことが出来る区間です。

国の史跡にも指定されている「加納城の本丸跡」からは、遥か金華山を望むことができます。斎藤道三、織田信長ゆかりの岐阜城を見ながら、往時を思い浮かべるのも興です。

- 1 手力雄神社
- 2 手力雄神社の鳥居と道標
- 3 切通陣屋跡
- 4 領下の地蔵堂の道標
- 5 関取鏡岩の碑と道標
- 6 八幡神社の塞神
- 7 安良町の道標
- 8 加納宿東番所跡
- 9 南広江の道標
- 10 加納城大手門跡の石碑
- 11 加納城跡
- 12 加納宿西番所跡
- 13 本町の千手観音

加納宿から河渡宿へ

加納宿から鏡島の街までの間は、残念ながら往時の面影を残すものはほとんど残っていません。「二里塚跡の碑」や中山道より少し南に下った菊池神社にある「往來の松の石碑」で往時を偲ぶしかありません。

鏡島地区は、長良川の鏡島湊で栄えた街であり、鏡島弘法と親しまれている「乙津寺」など、所々往時の面影を残すような家並みも見られます。

この近くには、今では大変珍しくなってしまう渡し船が、まだ残っています。この「小紅の渡し」から見る金華山もなかなか風情があつて楽しいものです。

- 16 二里塚跡の碑
- 14 往來の松の石碑
- 15 乙津寺
- 17 鏡島湊



伊吹山を正面に望みつゝ、  
厳しい「伊吹おろし」の中を進みます。

2 英泉の浮世絵「河渡長柄川鵜飼船」



河渡宿

河渡宿は長良川の渡しで栄えた宿場です。当時洪水に苦しんでいたこの宿場は宿全体の地上げ工事を行い、その「記念碑」が、かつて「河渡の二里塚」があったあたりに残っています。

残念ながら河渡宿は、第二次大戦による焼失や長良川河川改修によって、往時を偲ばせるような旧家は軒も残っていません。

- 18 河渡の渡し
- 19 河渡の馬頭観音
- 3 二里塚跡の河渡宿改修記念碑

河渡宿から美江寺宿へ

この区間の道すじは少しの変異もなく、今日自動車の行き交う賑わい道路としてそのまま活用されています。

特に「本田の延命地蔵」のある瑞穂市本田の地区は、比較的古い街並みが残っており、往時の雰囲気を感じることが出来ます。

- 20 馬場の石地蔵
- 21 本田の延命地蔵

美江寺宿

美江寺宿は、長良川の「河渡の渡し」や、皇女和宮ゆかりの小簾紅園がある揖斐川の「呂久の渡し」を控えて栄えた宿です。

古くは十二面観音を本尊として719年に「美江寺」が創建されたこと由来する地名で、現在の宿場は、中央部にある美江神社でし字型に屈曲する姿や本陣跡が残されています。

- 4 美江寺の二里塚跡
- 22 美江寺観音
- 23 美江寺宿本陣跡
- 24 美江寺城跡
- 25 熊野神社の春日局ゆかりの地碑

美江寺宿から赤坂宿へ

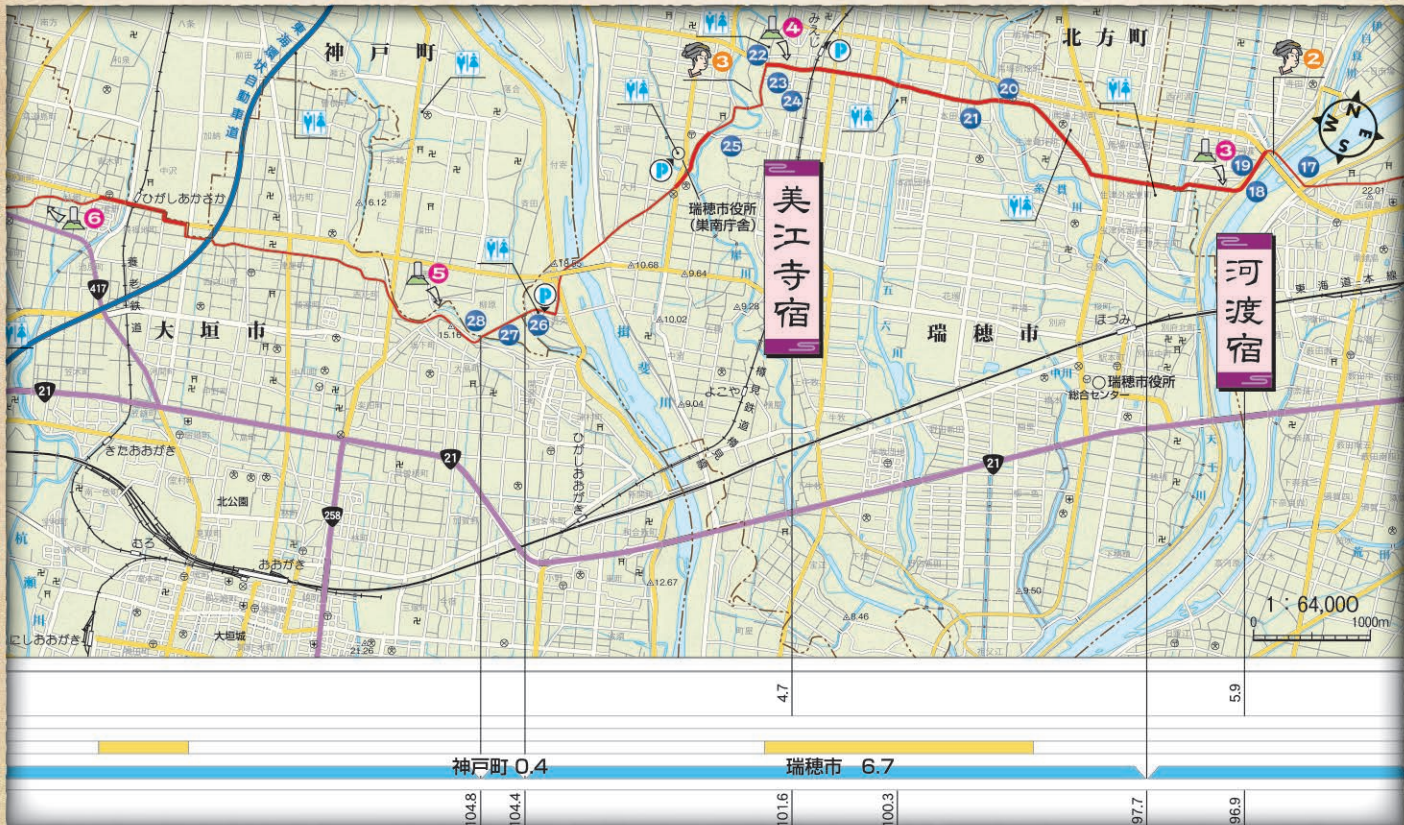
この区間は伊吹山を目指しながら西へ進む区間です。厳しい「伊吹おろし」も迎えてくれるでしょう。

当時の揖斐川は呂久の集落の西側を流れていたのですが、大正時代の河川改修のため、現在の流れに変わり、呂久は揖斐川の対岸の集落になってしまいました。この呂久には皇女和宮ゆかりの「小簾紅園」があります。

「柳原の二里塚」は、珍しく中山道沿いから離れた二里塚で、平野井川の対岸神明宮付近にありました。

神戸町と大垣市の境辺りの中山道は、くねくねとわねつており、道構はほとんどないものの、往時の雰囲気味わうことができます。

- 26 小簾紅園
- 27 呂久の渡し
- 28 坂下の道標
- 5 柳原の二里塚跡
- 6 青木の二里塚跡



宿間距離  
車両通行不能区間  
道路種別  
市町村延長  
☆ 散策した所に色を塗りましょう



南宮さんや谷汲さんに見守られてきた西濃地方。  
美濃国分寺跡があります。

4 歌川広重の浮世絵「赤坂」



赤坂宿

赤坂宿は、旧杭瀬川の「赤坂港」や谷汲山の巡礼で賑わった宿です。宿内は昔らしい街並みが見られ、將軍専用の休泊所であった「お茶屋敷跡」現在にはボタン園として有名「や」赤坂港跡「本陣公園（本陣跡）」など整備された遺構も多く、往時を偲ぶことができます。

- 29 赤坂港跡
- 31 本陣公園 赤坂宿本陣跡
- 33 赤坂宿の馬頭観音
- 35 勝山（家康本陣跡）
- 37 明星輪寺（国重文 木造地藏菩薩半跏像）
- 38 安楽寺
- 30 旧清水家住宅
- 32 谷汲街道の道標
- 34 お茶屋敷跡（ボタン園）
- 36 金生山石館

赤坂宿から垂井宿へ

この区間は比較的当時の雰囲気を残している区間です。「昼飯大塚古墳（県内最大の前方後円墳）」「円興寺（紅葉の名所）」「美濃国分寺跡」などの史跡があります。また、中山道からはずれませんが、垂井町の追分から名古屋方面へと向かう「美濃路」には、五十ほどの松並木が現存しており、当時の面影が偲べれます。

- 39 昼飯大塚古墳
- 41 円興寺（国重文 木造聖観音立像）
- 43 美濃国分寺跡
- 44 平尾御坊の道標
- 46 美濃路の松並木
- 40 旧早野邸セミナーハウス
- 42 照手姫水汲井戸
- 45 石橋の地藏堂と馬頭観音
- 47 追分の道標

垂井宿

垂井宿は美濃路の追分を控え、南宮大社の門前町として賑わった宿場です。宿内は鍵状で古い街並みも見られ、往時を偲ぶことができます。また「南宮大社の石鳥居」や「垂井の泉」などの史跡があります。また、美濃国の宮「南宮大社（社殿十八棟が国重要文化財）」のほか「本龍寺（山門は脇本陣のものを移築）」「真禪院（三重塔本地堂が国の重要文化財）」など、見どころもたくさんあります。

- 48 旅籠亀丸屋
- 51 垂井の泉
- 54 真禪院
- 49 紙屋塚
- 52 本龍寺
- 53 南宮大社
- 50 南宮大社の石鳥居



5 歌川広重の浮世絵「垂井」

中山道美濃路の終点。  
私たちが戦国の世へと導いてくれます。

6 歌川広重の浮世絵「関ヶ原」



垂井宿から関ヶ原宿

この区間は国道二一号と交差しながら、ほぼ平行して進んでいきます。

「垂井の二里塚」は、中山道全線の中でも二ヶ所しかない、国の史跡に指定されている里塚のうちの一つで、隣には茶所があり、昭和の初めまで休憩所としてにぎわっていました。また「野上の松並木」は、岐阜県内の中山道ではここしか残っていない貴重な松並木です。

- 55 日守の道標
- 56 野上の松並木
- 57 伊富岐神社大鳥居
- 58 垂井の二里塚とお茶所跡
- 59 六部地藏

関ヶ原宿

関ヶ原宿は今も昔も交通の要所であり、難所の今須峠や北国街道、伊勢街道などを控えて賑わった宿場です。本陣は現存していませんが、脇本陣は当時の門が名残をとどめています。

関ヶ原宿から今須宿

この区間は壬申の乱や関ヶ原の合戦など、日本の歴史の分かれ目となった舞台の中を進んでいきます。「不破関跡（古代三関のひとつ）」「若宮八幡宮（壬申の乱で敗れた大友皇子を祭る）」「常盤御前の墓（源義経の母）」などの遺構があります。

当時の難所だった今須峠は、今も冬になると交通の難所になってしまっほご急坂です。

- 60 不破関跡
- 61 不破関の句碑ほか
- 62 若宮八幡宮
- 63 矢尻の井と地藏堂
- 64 鶯の滝
- 65 常盤御前の墓
- 66 今須の二里塚

今須宿

今須宿は、中山道美濃十六宿の最西端の宿場です。今も静かな佇まいの宿内には、「問屋場（永楽通宝の瓦）」や「常夜灯」などがあり、当時を物語っています。

今須宿から滋賀県境

中山道美濃路の最西端の区間です。「車返しの坂途中で途絶えてしまっている」や「寝物語の碑」などの遺構が残っています。「寝物語の碑」の先に小さな側溝があります。この側溝が「美濃国」と「近江国」の国境で、数々の伝説と遺構を残した中山道美濃路の終点です。

- 68 車返しの坂
- 70 寝物語の碑

29



48



8



56

